

岩手医科大学歯学会第39回総会抄録

日時：平成25年12月7日(土)午後1時より

会場：岩手医科大学歯学部第四講義室 (C棟6F)

特別講演

オールセラミックストレスレション最前線

三浦 宏之

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究
科摂食機能保存学分野

近年、患者さんの審美的な要求やアレルギー回避等の観点から、メタルフリー修復に高い関心が集まっており、様々な高強度セラミックの開発や接着術式の発展と相まって、すでに多くの臨床に取り入れられるようになってきました。しかしながら、従来型のオールセラミッククラウンでは強度的に不安を抱いている臨床家も多く、つい最近まで審美補綴においてもメタルボンドクラウンが多くの症例で使用されてきました。

最近では、歯科においてもCAD/CAM、光学印象などのデジタル技術が盛んに導入されるようになり、クラウン、ブリッジ等の補綴装置の製法も大きく変わろうとしています。今日、歯科医療の中で、CAD/CAMシステムの発展は驚くほどの進歩を遂げています。加工精度の向上により、適合の良い補綴装置を容易に作製することができるようになりました。CAD/CAMシステムを応用したジルコニアによるオールセラミック修復が行われるようになり、ブリッジを含めたメタルフリー修復による審美修復の可能性も大いに広がってきました。以前は夢の世界であった、CAD/CAMによる補綴装置の製作が、高精度で実現できるようになり、クラウン、ブリッジ等の補綴装置の製法は、今から約半世紀前にバンドクラウンから鑄造冠に代わった昭和30年代に次ぐ、一大変革期を迎えようとしています。鑄造冠は適合が良く、強度が強いことから長くクラウンブリッジの中核をなしてきました。しかしながら溶け

た金属が固まる時の結晶の偏析や鑄造欠陥を避けることができず、もともと金属が持っている優れた性質を100%保った修復装置を製作することはできませんでした。一方、CAD/CAMは工業的に均一に作られたブロックを削り出して修復装置を作製するために、材料が持つ本来の優れた物性をそのまま引き継いだ補綴装置を作ることができるという大きな利点があります。

そこで、本講演ではCAD/CAM、ジルコニアを用いたメタルフリー修復の臨床経過を整理しながら、臨床的な観点からCAD/CAMを応用したメタルフリー修復の現状と将来の展望についてお話をさせていただきました。

一般演題

演題1. 平成25年度歯科専門体験実習における考察—頭蓋骨が発するメッセージ—

○東根まりい, 安藤 禎紀*, 藤村 朗*

岩手医科大学歯学部2年, 解剖学講座機能形態学分野*

目的：平成25年度歯科専門体験実習にて機能形態学分野に配属され、頭蓋計測を学んだ。その経験をさらに深め、頭蓋の特徴やルーツを探り、将来どんな歯科医・研究者として生きたいか、どんな研究をしたいか、そのために今何をすべきかを考える。

材料・方法：計測に用いた頭蓋は、インド人頭蓋骨1顆、石膏頭蓋(藤村)、学生(本人)の頭蓋。計測には滑動両脚器(ノグス)、測径両脚器および下顎角測定器を用いた。

結果：頭蓋を脳頭蓋と顔面頭蓋に分けて示数を算出した結果、頭蓋長幅示数は学生頭蓋では示数値98.4となり超短頭に分類された。過去の計測成績より、分類としては朝鮮人に近い頭型